

認知症と色彩関係について

デイケア かがやき

発表者	看護師	生見	由美
共同研究者	介護士	河野	富子
	介護士	原田	登
	介護士	松元	友美



「はじめに」

- ❁ 今回、私たちは認知症と色彩関係について調べることにした。
- ❁ きっかけは、2年程前、昼食のカレーライスを白ご飯の部分だけ残していた事に始まる。白色を認知していないのではないだろうかと考えた。
- ❁ 認知症の人の色彩について気になる点が多く、今回調査することにした。



「取り組み課題」

1. 色々な色選び
2. 色々な色の空間で3分間計算
3. 色塗りの観察
4. 食事の観察
5. トイレの観察



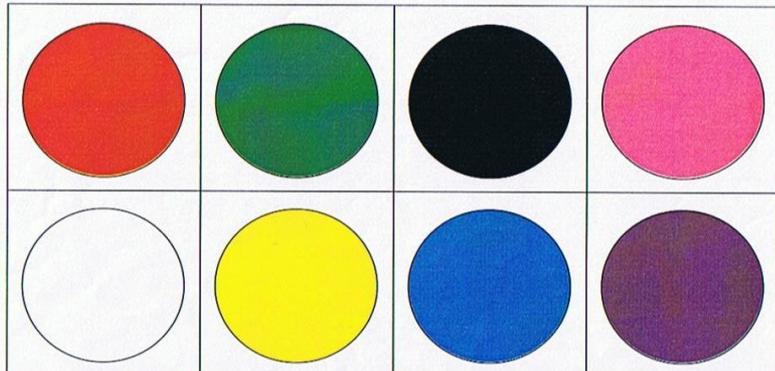
「具体的な取り組みと成果」



1. 色々な色の選びについて

※好きな色にひとつ〇印をしてください。

平成 年 月 日 名前()



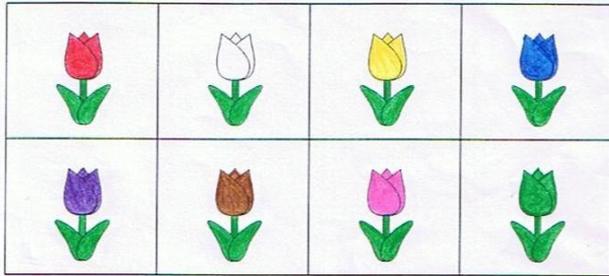
好きな色選びは、利用者全員を対象に実施した。好きな色選びは、3回通した結果をみてみると、ピンク・黄色の暖色系を選ばれる人が多かった。



	1回目 (7月上旬)	2回目 (7月下旬)	3回目 (9月)
赤	15名	14名	9名
緑	7名	5名	8名
黒	1名	0名	0名
ピンク	15名	14名	17名
白	1名	1名	0名
黄色	15名	19名	18名
青	11名	6名	7名
紫	8名	10名	6名
合計	73名	69名	65名

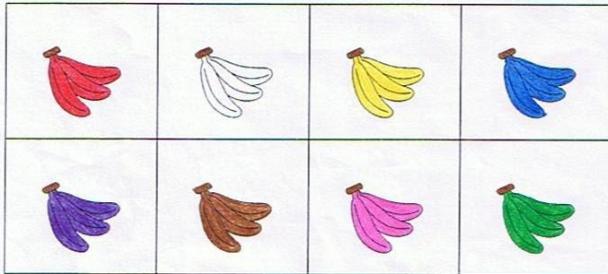
※好きなチューリップを1つ選んで下さい。

平成 年 月 日 名前 ()



※バナナを1つ選んで下さい。

平成 年 月 日 名前 ()



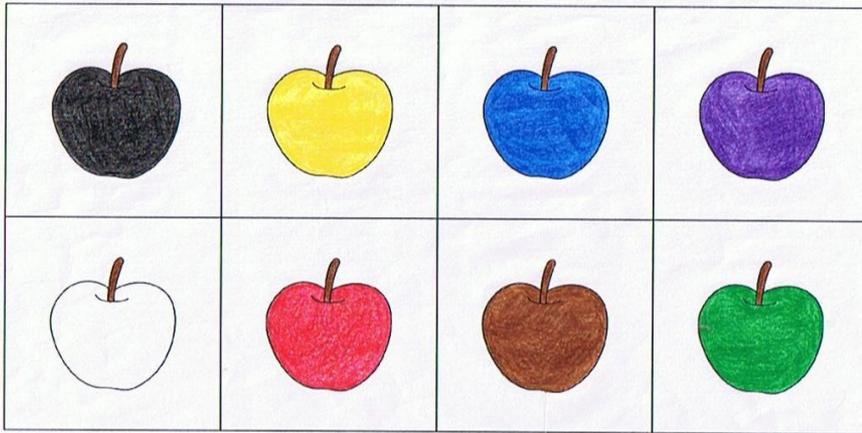
好きなチューリップ選びも
同様に赤・ピンクの暖色系を
選ぶ人が多かった。



	好きなチューリップ	嫌いなチューリップ	バナナ	嫌いなバナナ
赤	33名	3名	0名	8名
白	2名	5名	0名	19名
黄色	1名	6名	61名	3名
青	1名	16名	1名	12名
紫	2名	7名	1名	10名
茶	1名	12名	1名	9名
ピンク	14名	1名	1名	5名
緑	2名	26名	1名	12名
合計	66名	76名	66名	78名

※リンゴに○印をしてください。

平成 年 月 日 名前()



バナナ・リンゴ選
びは、ほとんどの方
が黄色・赤色を迷わ
ず選び、バナナ・リ
ンゴの認識の強さを
感じたが、色にこだ
わりを持っている利
用者は好きな色を選
んでいた。

	7月	9月
黒	0名	0名
黄色	9名	9名
青	5名	1名
紫	1名	1名
白	2名	0名
赤	54名	54名
茶	2名	0名
緑	1名	1名
合計	74名	66名





クッション選びにおいては、毎回色々な色を選び、統一性はみられなかった。

色々な色選びにおいては、認知症の人との色彩の認識の差や、また、男女の差はみられず、寒色系より暖色系を選ばれる結果となった。

	9月1回目	9月2回目	10月1回目	10月2回目
赤	4名	0名	2名	1名
白	1名	6名	2名	2名
茶	1名	1名	0名	1名
合計	6名	7名	4名	4名



2 . 色々な色の空間での3分間計算



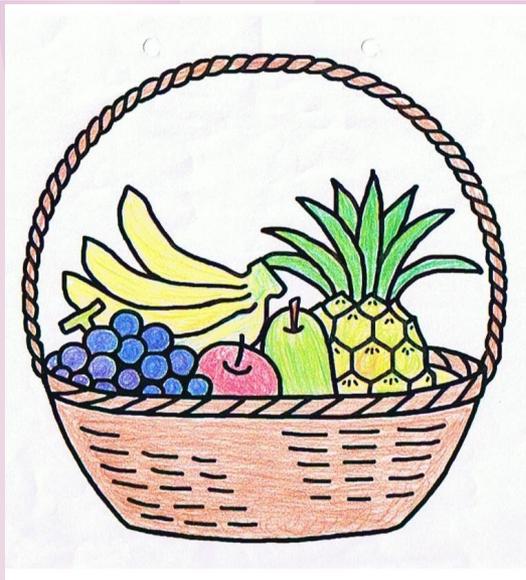
1. $8+1=$
2. $7+2=$
3. $6+1=$
4. $4+2=$
5. $9+1=$
6. $2+2=$
7. $2+5=$
8. $3+6=$
9. $5+4=$
10. $3+2=$
11. $2+5=$
12. $3+6=$
13. $7+2=$
14. $6+1=$
15. $5+4=$
16. $3+2=$
17. $4+2=$
18. $9+1=$
19. $2+2=$
20. $8+1=$

HDR—Sが20点台の利用者3名の人においては、赤もしくはは白の空間の時間が早く、青の空間の時間が遅いという結果がでた。

カラーセラピーによると、赤色・白色に比べ、青色は時間を短く感じさせる効果があり、病院の待合室などに取り入れる事がある。その事から、青の空間では、時間を短く感じ、自然とゆっくり解いたのではないかと考えた。

	白平均	赤平均	青平均	緑平均	平均の早い順	7月~10月の通常の平均
A	211分	214分	220分	217分	白・赤・緑・青	208分
B	125分	131分	135分	132分	白・赤・緑・青	130分
C	211分	149分	217分	213分	赤・白・緑・青	207分
D	255分	222分	239分	237分	赤・緑・青・白	235分
F	5問~234分	2/10~221分	6/10~249分	0/10~218分	緑・赤・白・青	0/10~218分
F	152分	151分	149分	156分	青・赤・白・緑	212分
G	29/30~228分	235分	25/30~222分	25/30~225分	青・緑・白・赤	3/30~210分

3.色塗りの観察



対象者に実施した果物の色塗りにおいては、ホール内で集団で実施した為、周囲の人の色使いを確認して塗っており、「何色で塗ればいいですか？」と周囲へ聞きながら塗っていた為、特に変わった点はみられなかった。



4. 食事の観察

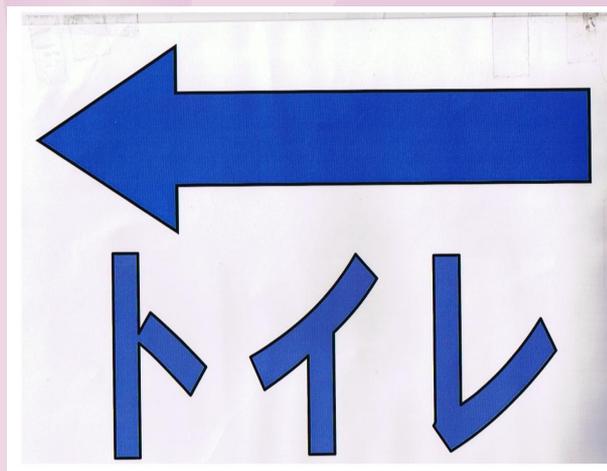
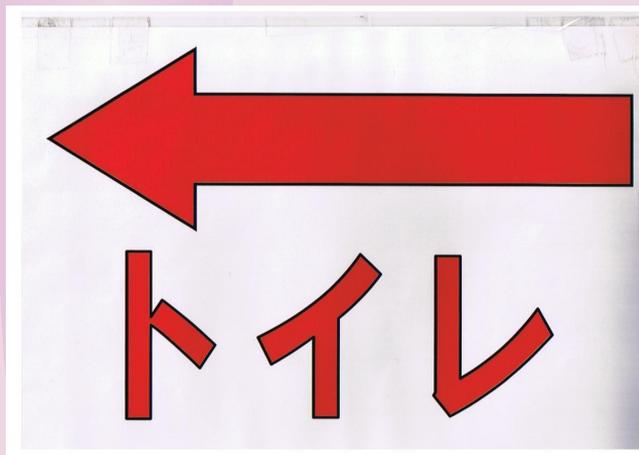
食事においては、茶色の御飯茶碗で食べている人の茶碗を白色へ戻した。不穏等みられなかったためか、白色に戻しても摂取状況は良好であった。

しかし、カレーライスの日、白御飯の部分だけ残す人がおり、漬物をのせたところ再度食べるという事があった。





5・ トイレの観察



トイレにおいては、指示誘導の必要な認知症の人のトイレへの動線中の目線のいくところへカードを貼った。カードの色は赤・青・黄・白にして実施してみた。

赤・青などはっきりした色の方が認識しやすく、更に文字の周囲を異色で囲むと認識しやすかった。



まとめ

今回認知症と色彩関係について確証を得る事は出来なかつた。また、デイケアにおいては、色の空間を作る事は難しい事、周囲の影響がある事などあり困難であつた。

しかし、色と認知症が深く関わりがある事は分かつた。また、認知症の有無に関わらず暖色系を好む事は、青・赤なすどの方が認識しやすい事など色、人に及ぼす影響は大いである。今後、色について知る調査を続け、また、認知症と色彩関係について知る部分を取り入れる様に考えている。

